

登校拒否・不登校問題

第25回全国のつどいin京都 実行委員会ニュース No.1



第25回登校拒否・不登校問題全国のつどい実行委員会事務局発行 2023年3月16日

【事務局連絡先】 メール kyoto.tsudoi.2023@gmail.com
携帯 080-4483-9224
〒607-8033 京都市山科区四ノ宮芝畑町1-9 林敬子
FAX 075-594-5841

3年ぶりの京都で、第1回実行委員会を開きました

2023年3月5日(日)立命館大学朱雀キャンパスにて、第25回全国のつどい第1回実行委員会を開きました。会場参加者48人・ZOOM参加者8人、合計56人。全国からは、埼玉・神奈川・東京・千葉・滋賀・兵庫・奈良・大阪・福岡・長崎など、京都からは26人が参加しました。長年つどいに関わっている方から初めて参加された方、青年の参加もあり、「つどい」を作っていく第一歩を踏み出しました。コロナ感染拡大のため延期・中断してから3年、困難を乗り越えてようやく再開に漕ぎつけました。

つどい・実行委員会は、互いを見直し尊重する場

実行委員会は、登校拒否・不登校問題全国連絡会世話人代表高垣忠一郎さんのメッセージの読み合わせで始まりました。高垣さんは「コロナ禍のために人と人が対面で向き合う教育環境がデジタル機器に置き換わり、子どもたちは新たな競争環境に追い込まれながらも健気に生きています。『自分が自分であって大丈夫』という自己肯定感は、たとえば子どもが『死にたい』と言った時『死にたいほどつらい気持ちなのだね』としっかりと受け止められ『死にたいほどにつらい気持ちの自分であっても大丈夫』と安心することでふくらむのです。日本国憲法13条は『すべて国民は個人として尊重される』と謳っていますが『尊重する』は英語でRE-SPECT(見直す)です。忙しくゆとりを失っている中で「全国のつどい」の意義がますます『見直され』なくてはなりません。実行委員会が、相互の気持ちを見直し合い、愛と希望を紡ぐ場になることを願っています」とよびかけられました。

実行委員長・春日井敏之さん(立命館大学大学院教授)挨拶より

こんにちは、いま、正式に決まり、身が引き締まる思いがしています。当初引き受けてくれていた植田健男さんと、全国のつどいについて話し合いました。2020年からいろいろな思いを温めての開催。彼の気持ちも引き継ぎ共有して実行委員長を受け継ぐつもりだと話したところ、もちろん彼も引き続き参加し協力すると言ってくれています。

現状を見ると、不登校の児童生徒の数は24万人と急激に増えており、特に小学校低学年が顕著です。それをどうとらえるのか。一方で、中高生は大人しくなり、学校のスタンダード化がいきなり、生徒達は思考停止の状態に「ねばならない」が浸透しています。それは子どもだけでなく親も教師も同じです。その枠をどう緩め脱却していくかが、不登校支援の大事なポイントでもあると思っています。

学校づくり、家庭づくりに競争のフィルターが入るとせつかくの思いが歪んでいきます。「教育の目的は何か」それは憲法やこどもの権利条約に示されているとおり「子どものしあわせ・子どもの最善の利益」です。子どもたちが生まれ、生きてきて良かった、1人でなくて良かったと思える時、自前のスイッチが入るのです。僕自身、中学の現場にいた時に親の会をつくり、それが自分のセイフティネットにもなっています。「走れ、走れ」にしんどい思いをしている子ども達に寄り添い、「ねばならない」から脱却して、子どもの関心や思いを尊重して、本人なりのエンジンがかかれば良い。

僕らにとっても4年ぶりに対面で集まる大事な場。つどい当日まで一緒にやっていたらと思っています。

【第1回実行委員会で話し合われたこと】

1. 実行委員長の選出

実行委員長に春日井敏之さんを提案し、承認されました。

2. 全国連絡会と「つどい」の誕生、これまで

全国連絡会事務局から、リーフレットとこれまでの一覧表をもとに今日まで 24 回のつどいのあゆみを話してもらいました。

3. 京都から・・・3年ぶりに「つどい」を開催するにあたって

2020年オリンピックイヤーに京都で開催をしたいと立候補し、会場を宮津として取り組みを進めてきました。しかしコロナに阻まれやむなく中断。京都の事務局は可能性をもとめて北部と交流し多くの学びを得てきました。「ガレリアかめおか」という会場と出会うまで二転三転しながらも今日を迎えたことが話されました。

4. 事務局体制

事務局長(林) 事務局次長(坂本) 会計(上坂・大概)

現在 10 数名の事務局メンバーで事務局のしごとを行っているが、まだまだ足りず、地元京都の方ぜひ参加をと呼びかけました。

5. 遠距離の実行委員会参加者の交通費補助について

交通費が実費で往復 2 万円以上の方に、1 万円の補助をします。従来通りの提案をし、拍手で承認されました。

6. 自己紹介

「つどい」への期待や想い、自分のこと、子どものこと、各地での取り組みなど、会場にいる方も ZOOM 参加の方も全員が語り、耳を傾けました。

7. つどいの概要(①～⑥)が提案され、それぞれ拍手で承認されました

① 名称 **第25回登校拒否・不登校問題 全国のつどい in 京都**
～語りあおう 学びあおう 子どもたちをまん中に～

② 主催 **登校拒否・不登校問題全国連絡会**
第25回登校拒否・不登校問題全国のつどい in 京都 実行委員会

③ 日時 **2023年 10月 7日(土)～8日(日)**

④ 場所 **ガレリアかめおか(京都府亀岡市)**

⑤ 記念講演・基礎講座の講師について

記念講演 高垣忠一郎さん

心理臨床家、立命館大学名誉教授、登校拒否・不登校問題全国連絡会世話人代表、京都教育センター代表。

基礎講座1「家庭で」 福本早穂さん

「親子支援ネットワーク♪あんだんて♪」「家族支援ネット♪らるご♪」代表。臨床心理士。公認心理師。

基礎講座2「学校で」 春日井敏之さん

立命館大学大学院教職研究科教授。京都府公立中学校教諭として20年余り勤務し2001年より立命館大学教授

⑥ 文化行事について

マリンバ奏者のオ・サナさん

マリンバに魅力を感じ、14 歳より始める。芸術の力で誰かの居場所になれるパフォーマーになることと、シンプルだけれど親しみを持てる暖かい演奏を心がけている。



8. 継続することと変更すること

コロナ禍の生活様式の変化であきらめなくてはならないこと、工夫を凝らしてならやれること…事務局で何度も話し合ってきました。

① 今まで通り12の分科会と分散会・ひろばを行う

「ガレリアかめおか」で、12の分科会と分散会・ひろばの会場が確保できる見込みです。

② 飲食を伴う大交流会は行わない

新型コロナウイルス感染について懸念し、大人数での会食を見送ることとしました。

③ 宿泊について

「ガレリアかめおか」には宿泊施設がないため、各自で宿舎の予約が必要となります。亀岡市のホテル情報はできる限りお知らせするつもりです。

④ 予算・参加費・申し込み方法について検討中

みなさま 第2回実行委員会と第3回実行委員会も
ZOOMで参加していただけることになりました!!

9. 今後の実行委員会の日程について

第2回	4月2日(日) 13:00~17:00	立命館大学朱雀キャンパス301	★ZOOM 可
	要項について		
第3回	6月4日(日) 13:00~17:00	立命館大学朱雀キャンパス308	★ZOOM 可
	要項の決定		
第4回	8月6日(日) 13:00~17:00	立命館大学朱雀キャンパス308	(ZOOM 不可)
	分科会世話人顔合わせ		
第5回	9月10日(日) 13:00~17:00	ガレリアかめおか	(ZOOM 不可)
	分科会世話人顔合わせ・受付等 担当の打ち合わせ		

【10月7日(土)8日(日)「つどい」本番】

第6回 12月3日(日) 13:00~17:00 まとめの実行委員会 立命館大学朱雀キャンパス308



第2回実行委員会のご案内

とき 2023年4月2日(日)午後1:00~5:00

ところ 立命館大学朱雀(すざく)キャンパス301教室

住所 〒604-8520 京都市中京区西ノ京朱雀町1

ZOOMでの参加を希望される方は、3月31日までに事務局のアドレスへご連絡ください。

第2回実行委員会で話し合うこと

1. 要項について

- ① 二日間のスケジュール
- ② 各分科会の説明文
- ③ 基礎講座の講座名と内容
- ④ 申し込み方法

2. 予算案について

ほか



参加者の感想

(たくさんの感想を頂きました。一部を掲載いたします)

◎全国各地からの参加に感動しました。各々の課題をかかえてそれぞれ活動されていることも自己紹介でお聞きし、またまた感動です。

「つどい」の構えや内容について、事務局も大変ご苦労様ですが、みんなの智恵と力で成功させましょう。(京都、退職教員)

◎「学校で」は名称を考えるとのことですが、今、教師も大変な状況の中、教師のホンネを語る場への需要もあって、この「つどい」の「学校で」はどういう場になるのかな…(大阪、親・元教員)

◎久々の対面での実行委員会。ZOOMの中にもなつかしいお顔。

いよいよ、スタートだなあと実感しました。兄弟姉妹に不登校経験の子たちが「こころの停留所」をたちあげたという話、スゴイ！！なあと聞いて聞きました。(東京・元教職員)

◎初めて参加しました。第1回実行委員会に参加して印象的だったのは、参加者からの自己紹介の(有意義な)長さです。それぞれの思いを安心して話すことができる場があることは、それ自体がとても大切な意義を持っていると感じます。その上で、自由に話す中で、それぞれが直面している状況が共有され、それが貴重な情報交換にもなっているのではないかと想像しました。(京都、家族・研究者)

◎京都駅に近い会場が確保されて良かったと思います。従来通りでない面があってもそれは仕方ないですね。高垣さんの講演を聴くことができること、楽しみにしています。分科会で多くの方々のお話が聴けること、楽しみです。懐かしい人たちに会えること楽しみです。実行委員会はオンラインでも話し合いの内容をつかむことができ有難かったです。(千葉、元教員)

◎うれしいです！

皆さんにお会いできたことも、「つどい」ができることも。(福岡・家族)

◎全国のつどいには第5回以来参加させていただく機会がなかったのですが、この「つどい」の存在が、とてもたくさんの人の支えになっているのだなあと改めて実感しました。

会えるかなあと期待していた人、会いたいと思っていたけど、まさかここで会えるとは思っていなかった人にもお会いでき、お誘いいただいた事感謝しています。やっぱり人は繋がりの中で生きているんですね。(京都・支援者)

◎久しぶりのつどい実行委員会、つどいに向けて動き出したという感じが嬉しかったです。(滋賀、家族・支援者)

◎今日は体調のせいもあってか、疲れました。

自分では自己紹介の時間はそれなりの制限をと言いながら、自分の自己紹介は結構好きに喋ったかもしれません。他人には厳しく、自分には甘いのが人間ですから、率直に相互牽制できる関係をつくりましょう。

年齢は高いですが、不登校の親歴は短く、「全国のつどい」歴はまだ0歳。高齢者の頑固さと親歴の未熟さから好き勝手な発言をするかもしれません。しかし、知らないことを知らないといい、未体験からくる違和感を口にするからこそ、つどいの燃料だと思っています。(京都、家族)

◎今から出発です。

これまでも親として、教員として、支援者として不登校(ひきこもり)問題に関わって来ましたが、地元で、全国のつどいが開かれることになりビックリもし、大変期待もしています。

大勢の参加者を迎えられて、つどいが素晴らしいものになるように力を注ぎたいと思います。(京都、家族・元教員・支援者)